平成 30 年度　地域ケアプラザ事業報告書

■　施設名

横浜市いずみ中央地域ケアプラザ

■　事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1　全事業共通

地域の現状と課題について
① 担当エリアである和泉中央地区は、区役所や区社協、子育て支援拠点「すきっぷ」、泉公会堂、区民文化センターなど泉区の中心となる施設が揃っており、生活がしやすい場所です。地理面では殆どが平坦地であるため、徒歩での外出はしやすいですが、道が狭くバス路線が長後街道や環状 4 号線だけのため、高齢になると移動がしにくいという課題があります。 ② 人口は泉区内でも中田地区に次いで 2 番目に多いです。泉区の高齢化率は 26 ㌫を超えていますが、和泉中央地区の平均年齢は区平均より若いです。しかし、20 代後半から 40 代で転入してきた人の高齢化が目立ちます。 ③ 地域の福祉活動が活発で、10 の各町内会単位で高齢者サロンがある他、体操教室も 13 団体あり、常設の地域住民の立ち寄り場所「いこいの家」や住民間の支えあいの仕組み、有償ボランテイア「ふれあいヘルプ」も立ち上がっています。連合や地区社協・民児協の連携が強く、中心となる人材も豊富で地域のイベントも多いです。しかし、この地域活動を総合事業に移行することについては様々な課題があります。 ④ 福祉総合相談窓口(地域包括支援センター)では、地域に認知症の方が増えている課題に対し、「認知症サポーター養成講座」を積極的に行い、認知症への理解を深めています。29 年 9 月に「いこいの家」で立ち上がった認知症カフェ「にちようカフェ」を生活支援コーディネーターと共に全面的に支援していきます。 ⑤ 地域防災に関しては今後も大きな課題と捉えています。特に発災時に「福祉避難所」としての役割を担うためには、区役所や地域の他の「福祉避難所」と連携強化を図り、災害時の体制を整える事が必要です。

(1)相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

① 様々な方々に気軽に相談していただけるよう、機会があるごとに広報を行ないました。相談には真摯に向き合い、迅速、的確に対応致しました。
② 月1回の職員会議、6職種会議、サブコ会議､デイ会議、相談員会議、週1回のケアマネ会議(包括主マネ参加)等を定期的に行う他、各職種が常に課題意識を持ち情報共有に努めました。
③ 高齢に限らず、障がい・子育てについての相談窓口を充実させるほか、介護サービスの最新情報はもちろん、地域のインフォーマルサービス等の情報を収集し、支援を必要とする方に適切な情報提供を行いました。
④ サービス事業者や医療機関、専門機関と連携し情報共有を随時実施しました。
⑤ 福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）職員が不在時は、所長、ケアマネジャー等職員が相談を承り、各職種が連携を取りながら全体で情報提供及び支援にあたりました。

(2)各事業の連携

① 所長、地域活動交流コーディネーター,福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）の職員、生活支援コーディネーターは月に1回、6職種会議を開催し、地域の状況・課題の共有や支援方法の検討を行います。また通所介護、居宅介護支援の職員とも職員会議等を通じて情報を共有し、地域の実情やニーズにあったサービス提供を行いました。
② 今年度も、福祉総合相談窓口(地域包括支援センター)・地域活動交流コーディネーター・生活支援コーディネーターの共催事業として「ママ・パパのための介護セミナー」､地域活動交流コーディネーター･生活支援コーディネーターとの共催で「よこはまシニアボランティアポイント登録研修会」等の講座を実施しました。広く地域に周知しケアプラザを知ってもらうことや福祉総合相談窓口(地域包括支援センター)が高齢者以外の相談機関であることの周知に努めました。
③ 地域の高齢者サロン等には、所長および5職種が輪番制で出席し、地域の情報を収集し共有しました。また地域住民に対して有益な情報を適宜提供致しました。

(3)職員体制・育成、公正・中立性の確保

① ケアプラザを利用されるお客様に満足いただけるサービスを更に向上させるには、福祉専門職としての能力向上と、専門的資格取得が重要と考えます。
今年度も、福祉専門職としての能力を向上させるために、ＯＪＴ体制を充実させていきます。新人教育はもちろん、採用年次による定期的な研修やフォローアップ研修で質を高め、介護福祉士や介護支援専門員、社会福祉士等の資格取得を正規職員・非常勤職員を問わず奨励･支援しました。さらに接遇にも力を入れ、お客様への質の高いサービス提供を行いました。
② 法人で独立した研修センターを設置しています。職種・年齢層・在勤年数・職制等様々な区分による研修が実施されており、研修には積極的に参加しました。それにより人材育成とスキルアップに努めました。
③ 福祉総合相談窓口(地域包括支援センター)が受けた相談に対し、居宅介護支援事業所を紹介する際、法人独自で作成している「居宅介護支援事業所新規依頼表」を使い、公正・中立性を確保しました。
④ 予防支援や居宅介護支援でサービスを使う際は、ハートページや資料等を用いて、利用する人が自己決定できるように支援しました。
⑤ 通所介護等はできる限り見学をお勧めし､お客様自身で自己決定出来る様支援しました。

(4)地域福祉保健のネットワーク構築

① 民生委員児童委員協議会、シニアクラブや町内会などの定例会に積極的に参加し、情報の共有、収集を行うとともに、各団体との連携強化に努めました。特に、各町内の会合には計画的に参加し、連携促進を図りました。
② 地域福祉保健計画を通じて、地区社会福祉協議会や連合町内会、民生委員児童委員協議会やシニアクラブ等の地域の関係団体との連携を密にし、地域課題の解決に向けて協働して取り組み、連携の強化を図りました。
③ 障害児・者への支援について、泉区障害福祉自立支援協議会や泉区基幹相談支援センター等と協働して取り組み、連携の強化を図りました。
④ 和泉中央・北部子育て支援ネットワーク連絡会に参加し、主任児童委員やこんにちは赤ちゃん訪問員、保育園、子育て支援拠点「すきっぷ」等の関係団体と連携を取りながら子育て支援に取組みました。
⑤ 地域課題としてもあがった、「ゆるやかな見守り体制」の構築に向けて、地域組織や民間企業、商店会、郵便局等の他、これまで連携の取れていないところに積極的に声をかけて連携促進を図りました。
⑥ 常設サロン「いこいの家」の運営推進委員となり、連携して地域の課題解決に向けて協働しました。また昨年「いこいの家」で立ち上がった認知症カフェ「にちようカフェ」へのサポートも所長をはじめ、福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）職員や生活支援コーディネーターが連携をとりながら係り、お客様の総合相談支援や権利擁護支援に繋がりました

(5)区行政との協働

① 泉区の区政運営方針の基本目標「～身近な自治で大きなつながり～元気の出る泉区づくり」について、地域福祉の推進を担う地域ケアプラザとして、町内会や民生委員をはじめ地域活動グループと連携をとり、その実現に向けて行動しました。
② 区福祉保健センターとの協議により、区の福祉保健等についての動向や地域の状況等の情報共有を行ないました。
③ 第 3 期地域福祉保健計画地区別計画では地域支援チームの一員として参画し、連携を図りながら課題解決に向けた取組や、地区別計画推進委員会への事務局としての参加、地域に向けたＰＲ活動を個別的に行いました。
④ 横浜型地域包括ケア計画策定に伴い、泉区での行動指針が策定されました。これに伴った事業の推進を区役所・区社協・他の地域ケアプラザと連携し、泉区における地域包括ケアシステムの構築に尽力しました。

2 地域活動交流事業

(1)自主企画事業

① 今年度も、高齢者、障害児・者、子育て支援など、それぞれの地域ニーズや特性に応じた企画を行い、幅広い階層の参加が得られるような自主事業を展開しました。尚、実施にあたってはケアプラザの貸室団体などの協力を積極的に呼びかけました。
② 地域ニーズを反映した企画を随時実施しました。昨年度より継続して多世代交流事業を継続実施し、ケアプラザが様々な世代の方々の交流の場となるよう努めました。また福祉総合相談窓口(地域包括支援センター)、生活支援コーディネーターと共催でダブルケアについての講座を企画し、区内の幼稚園、保育園をはじめ小中学校に周知し、実施いたしました。

昨年からスタートした健康マージャン初心者クラス「まほろば会」は大変好評に付き、新メンバーを募集して活発に継続中です。
③ 事業の際、参加された方へそれぞれの事業の目的やケアプラザの役割等を明示・周知して、福祉保健の推進につながる事業展開を行ないました。
④ ボランティアや参加者とともに、企画・運営できる事業を充実させ、参加するボランティアの拡充を図りました。
⑤ ケアプラザの自主事業から発展した自主サークルが､スムーズに活動できるよう支援し、順調に活動を継続しております。
⑥ 自主事業を通して捉えた地域の課題は、自治会・町内会、地区社会福祉協議会をはじめとする地域の諸機関や学校等の関係機関、および福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）と共有し解決に向けて協働しました。
⑦ 地域高齢者サロンや地域体操教室がとても盛んな地域です。自主事業をはじめ、エリア内にあるサロンや体操教室等で、介護予防への意識付けや運動の指導等、活動の活性化を図るとともに、消費者被害等への啓発にも取組みました。

(2)福祉保健活動団体等が活動する場の提供

多くの皆様にご利用いただくために、広報紙や地域の会合等で案内する等、積極的な広報を行い、これまであまりケアプラザに関心のなかった方にも活用していただけるように情報提供を工夫しました。

（１） 施設の利用率向上の対策

施設の積極的紹介

① 各自治会の総合防災訓練や夏祭り等、地域の行事に積極的に参加し、これまでケアプラザに関心のなかった方々にもケアプラザの役割・機能について広く周知を行いました。
② 高齢者、障害児・者、子育て世代など様々な層を対象とした事業を展開することにより、ケアプラザの存在の周知を図り、施設利用につながるよう働きかけました。
③ 和泉中央地区内にある小学校や幼稚園・保育園に出向きケアプラザの講座のチラシなどを配布し、ご参加いただくことで幼児・児童やその保護者にケアプラザを身近な場所として感じていただけるよう周知を進めました。
④ 中学校の職業講話や小学校の福祉体験などの依頼を積極的に受け、ケアプラザが高齢者に特化した施設ではないこと、障害児・者や子育てに関する事業も行っていることを周知しました。

イベントの開催

① ケアプラザまつり「そよ風フェスタ」等、どなたでも気軽に参加できるイベントを積極的に行いました。その際に小中学校や幼稚園・保育園などにチラシ配布を行い広く広報すると同時に、発表者やボランティアとして参加いただけるよう声掛けを行いました。
② 地域住民、区社会福祉協議会、障害者施設等との共催事業の実施により、地域の方々同士、幅広くふれあう機会を提供しました。

（２） 効率的な施設貸出の方法

① 当ケアプラザを拠点に活動するサークルやボランティア等のグループを育成・支援し、グループの自主活動に向け、スムーズに施設の貸出しができるよう取組みました。
② 貸室利用申込みの希望が重なった際などは調整を行い、少しでも多くの方にご利用頂けるよう工夫しました。
③ 利用率が低いと予想される土曜・日曜・祝日及び平日夜間の時間帯を活用できるよう、子どもから一般成人、健康な高齢者までを対象とした自主事業を計画する

等、工夫しました。

(3)ボランティアの育成及びコーディネート

（1） ボランティア育成についての考え方

多様化・複雑化する地域のニーズに対応するため、柔軟に、きめ細かく対応できるボランティアとの協働が必須であることから、ボランティア間の協働やネットワーク化による活動内容の充実や活動しやすい環境を整備するなど、今後増加が見込まれる団塊世代の方々が活動しやすいような取組を随時実施しました。

（2） ボランティア育成の取組

当ケアプラザではデイサービスでのボランティア活動の他に、高齢者や、障害児・者、子育ての分野において積極的に活動していただけるよう情報提供等の支援を行いました。
また、「よこはまシニアボランティアポイント事業」の受入施設として指定を受けることにより、多くの方がボランティアに参加しやすい環境づくりを行いました。

育成体制

① 地域活動交流担当が、ボランティア活動に関しての相談、情報提供を一元的に行うことで、ケアプラザでの実務経験や福祉介護に関する幅広い知識やノウハウを持つ職員、あるいは先輩ボランティアと共に活動していただけるようコーディネートを行い初めての方でも安心してボランティアに参加できる環境づくりを行いました。
② 個人またはグループで活動のできるボランティアの登録を受け付け、ケアプラザ内や地域での福祉保健に関する活動の場を提供し、「よこはまシニアボランティアポイント事業」につなげました。また、地域での活動の場については、区社会福祉協議会とも連携しながら、コーディネートを行いました。
③ ボランティアがより安心して活動できるように専門知識・介護技術などの研修・講座を定期的に開催し、スキルアップのための後方支援をしていきました。
④ ボランティア同士、および職員とボランティアのネットワーク構築のため、年１回、日頃の活動への感謝を含めた「ボランティア感謝と交流の集い」を開催しました。
⑤ 貸室登録団体のボランティア活動を支援するために、自主事業の中でのボランティア活動の場の提供を積極的に行いました。
⑥ 泉区学齢障がい児余暇支援事業「ジュニアフレンド」において、積極的に地域や学生のボランティアを募ることで、障害児・者への理解を深めてもらえるように努めました。
⑦ 多くの方にいろいろな立場でボランティア活動に参加していただけるよう、地域で様々な特技やノウハウを持っている方を、講師として活動につなげることができるよう働きかけました。

活動環境整備

① 「ボランティア感謝と交流の集い」を実施し、日頃の活動に関しての感謝と労いを伝え、情報交換を通じた他の活動の理解を深めることで、ボランティア相互のつながりを強め、活動の刺激となるような働きかけを行いました。
② 貸室利用団体のボランティア活動を支援するために、様々な活動の場を提供しました。連携を図りながらケアプラザの自主事業の手伝いなど、活動の奨励を行いました。
③ 「よこはまシニアボランティアポイント事業」へ参画し、ボランティアのモチベーションがあがるよう情報提供や働きかけを行い、活動開始のきっかけ作りを支

援しました。
④ 日頃のボランティア活動に対して、泉区社会福祉顕彰候補者や横浜市社会福祉協議会会長顕彰への候補者として区社会福祉協議会へ推薦し、受賞者のボランティア活動へのモチベーションがあがるように働きかけを行いました。また、ケアプラザ広報紙へ受賞者の記事を掲載し活動に対して感謝の気持ちをお伝えしました。
⑤ 気持ちよくボランティア活動が継続できるよう、ボランティア受け入れ時のマナーに関する留意点をケアプラザのスタッフに適宜話し、適切な対応に努めました。

広報活動
① 地域の行事等を利用してのアンケート調査や広報紙等での広報活動、中・高生の実習を積極的に受け入れ、児童の頃からボランティア活動に親しむよう働きかけました。
② 当ケアプラザのボランティア活動を、区社会福祉協議会、ケアマネジャー連絡会、自治会・町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会などをはじめ地域の方々に広く周知しました。
③ 地域の中学校で行う職業講話等にてボランティアの必要性や期待感等を伝え、活動につながるよう取組みました。
④ 当ケアプラザ館内に、ボランティアメンバー募集等のチラシを掲示するスペースを設け、来館される方へ広く周知を行うと共に、ケアプラザ事業や貸室登録団体の活動紹介を求めて来館された方へも、ボランティア活動への参加を働きかけました。
⑤ 広報誌やホームページ等でボランティア募集情報を随時発信しました。

研修等の実施
① 適正なボランティア活動を行っていただくため、「ボランティア感謝と交流のつどい」の中で今後の活動に有益となるスキルアップ講座を開催しました。
② 当ケアプラザでは「よこはまシニアボランティアポイント」の受け入れ施設となっており、登録研修会を実施しました。登録研修会では高齢分野の説明だけではなく、障害児・者や子育て分野等の説明も行いました。

(4)福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

① 法人で作成した地域アセスメントシートを用い、地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターや福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）が協働しながら地域情報を共有・更新しました。また必要に応じて、地域福祉保健計画等でも情報を随時提供・共有しました。
② 法人内の各職種の担当者会議や研修会などに積極的に参加し、福祉保健に関するさまざまな情報や地域の社会資源などについて、常に最新の情報を収集するよう努めました。
③ 地域においては、各関係機関の会合や各団体の催し、サロンに参加するなど地域の方の声を積極的に聞き、情報収集に努め、また必要な情報を提供しました。
④ 子育て支援ネットワークへ積極的に参画し最新の情報を収集するように努めました。
⑤ 和泉中央地区にある常設サロン「いこいの家」において、参加者や運営スタッフからの情報収集に努めました。

3 生活支援体制整備事業

(1)事業実施体制

① シニア男性の介護予防・認知症予防を目的とした「男性のためのアクティブ Life 講座」の運営企画を行う男性グループ「ducks」メンバーとともに引き続き男性の地域デビューを促進し、地域の新たな男性の担い手発掘活動を行いました。
② 昨年度若い世代をターゲットとした健康講座「Change The Life」を実施しました。そこから介護予防を目的としたサークル「LaVita」が発足しました。今年度も講座を実施し､サークルに繋げ地域包括ケアシステムや健康になることが一番の介護予防となることを伝え､若いうちからの介護予防活動の周知を行ないました。包括支援センター（特に保健師）と連携し、介護予防事業や地域内においての介護予防啓発に努めました。またダブルケアに向けた具体的取り組みとして「ママ・パパのための介護セミナー」を共催で実施しました。
③ 担当エリア（包括エリア）における社会福祉法人の地域貢献活動の取組みと地域が求めているニーズとのマッチングに向けた情報収集や、実際の活動に向けた取組を行いました。
④ 区域での大きな課題でもある、地域活動の担い手育成に向けて先駆的に取り組んでこられた、和泉中央地区社会福祉協議会と共催で講演会を実施しました。現在行なわれている地域活動を継続していくためのヒントや発展していくために必要なことを学ぶ機会をつくりました。
⑤ 「泉サポートプロジェクト」と連携し、移送支援の担い手育成及び発掘や事業展開に協力しました。その為に、昨年度に引き続き移送に関する地域のニーズ調査を行いました。

(2)地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

① 所長及び福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）職員・地域活動交流コーディネーターと連携し、地域のサロンや体操教室、行事に積極的に参加しニーズ・資源の把握・分析に努めました。
② 男性グループ「ducks」のメンバーからも男性のニーズ把握に務め、それにあった講座や働きかけを実施しました。
③ 現在、和泉中央地区社協主催の「にちようカフェ」に参加しており、実際の認知症当事者の方や、家族を介護中の方、連合、地区社協、民生委員と多くのスタッフ・参加者がいることから広くニーズ把握に努めました。
④ アセスメントより得た地域ニーズと資源とのマッチングや､エリア内における居宅介護支援事業所などに情報提供を実施しました。

(3)連携・協議の場

連携及び協議の場として、現在実施している､「ducks」の定例会や「にちようカフェ」での振返り等を活用し、ニーズ把握や情報提供に務めました。また連携及び協議の場として必要に応じて協議体を実施しました。既存の連絡会や会議に積極的に参加し、関係諸機関との更なる顔の見える関係作りを行いました。

(4)より広域の地域課題の解決に向けた取組

① 現在地域課題としてあがっている、認知症理解に関する取組として、認知症サポーター養成講座の開催を福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）職員および地域活動交流コーディネーターとともに積極的に地域内に働きかけ、実施しました。
② サポーター養成講座を受講するだけでなく、受講後の具体的な取組みとしてお住まいの地域内でのゆるやかな見守りに繋がるよう適宜説明をしました。
③ 地域内の男性の孤立化・孤独化の防止、新たな仲間作りや社会参加の場つくることを目的とした取組み「男性のためのアクティブLife講座」を主催する「ducks」の活動を事務局としてサポートしました。昨年度同様、泉区内の地域ケアプラザにも働き掛け、泉区全体でグループを支援しました。
④ エリア内の社会福祉法人の地域貢献活動と地域のニーズとのマッチングに努め、講座開催等を行ないました。

4　地域包括支援センター運営事業

（1）総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

① 地域の会合・サロン・シニアクラブ・地域行事等へ出向き、福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）の周知を行い、地域との関係づくりや連携を図りました。
② 区役所や地域の関係者（民生委員など）、ケアマネジャーとネットワーク構築を図り、地域での話し合いを開催するなど、密接な連携と情報共有により、地域のニーズを把握するように努めました。
③ 地域の金融機関、コンビニ、スーパー等各種店舗などに福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）の案内を配布し、地域包括支援センターの周知にさらに努めました。
④ 地域で見守りが必要な方を早期に把握し、見守りできるように地域の金融機関、コンビニ、スーパー等各種店舗などに福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）の機能と役割の周知をさらにすすめ、相談支援等につながるようなネットワーク作りに取組みました。

②実態把握

① 地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと協力しながら法人の地域アセスメントシートを更新し、引き続き地域の実態把握に努めました。
② 地域活動交流、生活支援コーディネーターと協力し、各町内会館やコミュニティハウスで行われている地域活動の把握に努めました。
③ 地域からの相談状況を地図に表記し、地域の実態の「見える化シート」の随時更新を行ないました。
④ 高齢者サロン・シニアクラブ・地域行事等に参加して、地域の実態把握に努めました。
⑤ 地域の金融機関、コンビニ、スーパー等各種店舗をまわり、福祉総合相談窓口（地域包括支援センター）の周知を行い、チラシの掲示等や情報収集・実態把握に努めました。
⑥ 事業開催時にアンケート調査を行い、地域の実態把握に努めました。

③総合相談支援

① 地域からの相談に関しては、当事者のみならず家族や地域の状況も踏まえ、対応致しました。
② 電話相談、窓口相談、訪問等により高齢者介護を始めとする地域住民の幅広い相談に応じ、地域資源や介護予防事業等の情報を提供致しました。また各種サービス機関・団体との連絡・調整により課題解決に向けて動きました。
③ 支援や見守りが必要な高齢者に対して、訪問等、継続的な見守りと状況に合わせた支援を行い、その為に必要な支援を常設サロン「いこいの家」や関係機関と連携し行ないました。
④ 相談内容の分析を行い、地域の課題解決に努めました。
⑤ ダブルケア支援のため、「ママ・パパのための介護セミナー」を生活支援コーディネーター、地域活動交流コーディネーターと共催にて実施しました。

（２）権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

① 「成年後見制度」の講座を行い、普及啓発を行いました。
② 泉区版エンディングノート「わたしの人生計画帳」の普及啓発のため、エンディングノートに関する講座を実施しました。
③ 成年後見制度や法律に関する相談会を開催し、相談の掘り起こしに努めました。
④ 地域の高齢者サロン等で、振り込め詐欺や消費者被害の防止をテーマにわかりやすく注意喚起を行いました。実際に振り込め詐欺を防ぐ事例もありました。
⑤ 区社会福祉協議会あんしんセンターと協力して、地域サロン等であんしんセンター等権利擁護について普及啓発を行いました。
⑥ 消費者被害や詐欺等に遭われた方に対しては、関係機関や専門家につなぎ対応策を講じるなど早期対応・早期解決に努めました。

②高齢者虐待への対応

① 横浜市高齢者虐待防止マニュアルに基づき、実態を把握し、区高齢・障害支援課と支援の方向性を共有します。また関係機関とチームでの支援体制を構築し専門的・継続的な視点から支援を実施いたしました。
② 早期発見できるよう、ケアマネジャーやサービス事業所、民生委員等関係機関と連携を図りました。
③ 虐待の疑われるケースについては、泉区役所高齢障害支援課の保健師やケースワーカーと連携を取り、実態把握や情報収集を行う等、迅速な対応を図りました。また、定期的に訪問等を行うなど継続的な支援を行いました。
④ 介護者の精神的負担軽減のため「介護者のつどい」を 2 ヶ月に 1 回開催し介護者支援を行いました。
⑤ 区高齢・障害支援課と泉区内 6 包括と協力して作成したリーフレット「気づき」を地域で配布し、虐待予防の普及啓発を行いました。

③認知症

① 昨年度に引き続き、エリア内の地域住民・小中学校・民間企業に対し、継続してサポーター養成講座を実施しました。
② まだ実施していない町内会・店舗、などでサポーター講座を実施し認知症の理解と、ゆるやかな見守りの輪が広がるよう、働きかけを行いました。その結果、新規で作業所スタッフを対象としたサポーター養成講座を実現する事ができました。
③ キャラバン・メイトが主体的に活動できるよう、連絡会や講座打ち合わせをおこない、活動の後方支援を行ないました。
④ いこいの家の「にちようカフェ」に参加し、ケアプラザとして継続してサポートし、次年度からはチラシにも協力機関と明記され、より連携し携わることとなりました。
⑤ 福祉の専門職であるケアマネジャー等に対し、ケアマネ連絡会等で、認知症について学ぶ機会を継続して提供しました。

（３）包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

① 地域のサロン・シニアクラブ・イベント等に参加し、福祉総合相談窓口(地域包括支援センター)の PR・介護保険制度の説明・介護予防啓発活動を行い、地域との関係づくり・連携に努めました。
② 介護保険制度やケアマネジャーの役割について、地域住民や関係機関に周知することで、ケアマネジャーのケアマネジメント支援につなげました。
③ ケアマネジャーと民生委員・サービス事業所との連絡会や勉強会を開催し、顔の見える関係の構築を目指し、連携が図りやすくなるための支援を行ないました。
④ エリア内のグループホーム・小規模多機能居宅介護・定期巡回随時対応型訪問介護看護・地域密着型通所介護の推進会議に出席し、情報交換を行い地域のサービス事業者との連携を図りました。

②医療・介護の連携推進支援

① 今年度もエリア内の医療機関(病院・医院・薬局・歯科)に定期的な訪問を継続し、関係性を深め地域の医療と介護のネットワーク構築に努めました。また、得た情報を 6 職種会議等で共有しました。
② 医療機関と協働し、地域住民向けに講演会の開催・ケアマネジャー向けに勉強会を開催しました」。
③ 区内 6 包括でエリア内の「医療機関・調剤薬局情報ガイド」を更新しました。ケアマネジャーと医療機関に配布することで、連携のツールの一つとなるよう努めました。

③ケアマネジャー支援
① 泉区高齢・障害支援課や区内６包括や区内他包括で、月１回ケアマネ連絡会を開催し、ケアマネジャーのスキルアップとケアマネジャー同士の連携への支援を行いました。 ② ケアマネジャーからの相談を随時受ける体制を確保し、相談に対しては専門的見地から助言・情報提供・同行訪問を行いました。 ③ 法人内の主任ケアマネジャーで作成したアンケート「ケアマネジャーの皆様へお願い」を、エリア内の居宅介護支援事業所に実施し、ケアマネジャーのひとり一人の把握と個別支援につなげました。今年度は生活支援コーディネーターと協力して、居宅介護支援事業所を訪問し、ケアマネジャーから情報収集を行うと共に、地域のインフォーマル等の情報提供を行い、地域資源の見学会を実施しました。 ④ 区内 6 包括で新任ケアマネジャー向けに、3 日間の研修を計画・実施しました。 ⑤ 居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーが、各事業所で中心的役割を担えるよう、連携をとり一緒にスキルアップの機会を作りました。また、主任ケアマネジャーの更新時に資格要件が満たせるような企画を実施しました。

（４）多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議
① 個別レベル・包括レベルでの地域ケア会議を、定期的に実施しました。 ② 効果的な地域ケア会議を進めていくため、6 職種や区高齢・障害支援課と協働して、会議前には議題の検討を、会議後には振り返りを行いました。 ③ 様々な職種・立場の方にケア会議に参加していただき、地域包括ケアシステムの理解を広げる事ができ、より具体的な資源の創設に向けて動く事ができました

（５）介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第１号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第１号介護予防支援事業）
① 事業対象者・要支援のお客様一人ひとりについてのアセスメントを行い、お客様の個別性に対応した生活機能維持・向上と自立支援の視点を持った介護予防プランを作成しました。 ② 介護予防の効果を最大限に発揮する為に、地域のインフォーマルマップを活用し情報提供を行いました。お客様の QOL の向上、自立支援に資するよう、介護予防プランの中に位置づけ、インフォーマルサービスの活用に繋がるよう支援を行いました。 ③ 地域のケアマネジャーに対して、区高齢・障害支援課、区内他包括と連携をとり、介護予防従事者研修を企画・運営を行ないました。ケアマネジャーの介護予防ケアマネジメントのスキルアップに繋がるよう支援しました。

（６）一般介護予防事業

一般介護予防事業
① 地域の要請に応じて、地域自治会館での出張出前講座を 6 職種で連携し行ないました。 ② 地域の要請に応じて、泉区高齢・障害支援課と連携をとり地域自治会館で出張測定会を行いました。また必要な方には測定結果に対するアドバイスを個別に実施しました。 ③ 介護予防普及啓発事業については、泉区高齢障害支援課やエリア内の他施設と連

携をとり企画運営・ＰＲを行いました。日程を変えて2回行う、春・夏・秋・冬の介護予防講座として通年で数多くの講座を開催する等のより参加しやすい工夫に取り組みました。今までケアプラザを利用したことのない高齢者や、介護予防事業参加を躊躇していた高齢者に参加いただくなど、より多くの住民の参加に繋げる事が出来ました。

④ 地域介護予防活動支援事業としては、泉区高齢・障害支援課や他エリア包括と連携し、介護予防活動に興味関心のある地域サロンボランティアにむけて、交流や情報交換、介護予防スキルアップを目的とした講座を実施しました。また、常設サロン「いこいの家」を拠点とした、ノルディックウォーキング自主グループの活動継続支援を行いました。今年度も、ノルディックウォーキングリーダーによる長距離スペシャルウォーキングを企画・運営しルディックウォーキングリーダーとしてのスキルアップと活動支援を行いました。

⑤ 男性高齢者向けの介護予防事業として、筋力の維持・向上を目的としたかがやき健康体操教室の活性化に取組み、新規の参加者も増えました。また、筋力・体力・バランス・柔軟性の低下傾向にある男性高齢者に向けた、椅子に座ったまま行う座式太極拳教室を開催し、新たな男性参加者も増えております。

５　その他

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

① ケアプラザは高齢者、障がい児・者、乳幼児等、様々な方が利用されます。地域の皆様が快適・安全に利用できるように、施設・設備の管理・保守・清潔の確保をすることに最善の注意を払ってまいりました。

② 具体的には、設備総合巡視、空調設備、消防設備、機械警備・自家用電気工作物等の定期的な保守点検、定期清掃や日常清掃、衛生管理、緑化管理、不具合の対応等を専門の委託業者と契約し適切に対応致しました。

③ 建物の老朽化に伴う汚れや修繕箇所も増えており､従前から積極的に修繕や清掃等に努めてきましたが、今年度も区と協議しながら引き続き適切に対応してまいりました。

④ 施設内外の環境保持については､日々の草取りボランティアの他､年2回ケアプラザの事業としてケアプラザご利用のお客様から募ったボランティアによる一斉清掃を行い、環境整備に努めました。

(2) 効率的な運営への取組について

① 効率的な運営を目指し無駄な経費削減に向け各担当が連携して取り組み、四半期ごとに振返りを行いました。
② 法人本部とともに、建物管理・保守、清掃等の委託業者の選定を行っております。
③ 法人のスケールメリットを活用し、法人内の他の事業所と合同して車両リースの一括入札を行い経費削減を図りました。
④ 不必要な照明はこまめに消し、光熱費の削減を実施。ソーラーシステムが導入されましたので適切な管理を心がけてまいりました。
⑤ 職員には業務の効率化を指導し、超過勤務の減少に努めました。

(3) 苦情受付体制について

① 法人本部で定めている苦情解決規則に従い、ケアプラザの苦情受付担当者・苦情解決責任者を定め、館内に掲示するとともに、いただいたご意見に対しては責任を持って、お客様の立場に立って丁寧に対応を致しました。
② 法人本部では第三者委員制度を設置し、お客様の声がより公平にお伺いできる体制を整えております。
③ 館内に「ご意見箱」を設置しいつでもどなたからでもご意見がいただけ大勢を継続しております。
④ 苦情解決後は、職員・スタッフ間で会議を通して共有するとともに振り返りを行うことで、その後の業務のあり方や職員・スタッフのスキルアップにつながる体制を作りさらに意識を高めたいと思います。
⑤ 毎月、各事業所の苦情を本部で集計し、所長会で原因を考察し、事業所に持ち帰った情報を職員に周知徹底することで再発防止に努めております。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

① 緊急時(事故・犯罪等)に備えて対応マニュアル・連絡網について見直し、研修を実施いたしました。
② 今年度も防災対策に注力し、いずみ中央地域ケアプラザのマニュアル、ＢＣＰ(事業継続計画)に沿った年 2 回以上の防災訓練を通して、緊急時にケアプラザ職員がマニュアルに則った対応がとれるよう、入浴時等いくつかの場面を想定し災害時の備えを行いました。今年度も危険場所の確認等を行いました。
③ 区との協定により、「福祉避難所」として災害時に地域防災拠点では避難生活を送ることが困難な高齢者などの避難場所としての役割を担っております。昨年度は、区役所と協働で具体的な開設準備等、対応の仕方を訓練することができました。今年度も職員誰もが対応できるように訓練の実施や「福祉避難所」の周知を行いました。
④ 防犯対策としては、警備会社と委託契約し緊急対応が取れる体制を整えています。ボランテイア等来所者には名札を渡し、不審者が入館できないようにしております。

(5) 事故防止への取組について

① 設備の法定点検や、チェック表・マニュアルによる日常点検を行うとともに、ＡＥＤ操作や救命救急の研修を開催しました。
② 昨年度、「ヒヤリ・ハット」の研修と様式の見直しを実施。今年度も日常の業務において報告の徹底とその後の共有化にて、事故を未然に防ぐ努力と原因および改善点の検討を行いました。
③ 事故が起きた場合は、直ちに法人本部・区に一報を入れ、被害者が出た場合は真摯に対応し、再発防止に向けてその日のうちに原因を究明・分析、対応策を検討・実施後、報告書を作成し、再度、・法人本部・区に報告。またミーティングや全体会議で報告し、職員全員に周知・徹底を行いました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

① 今年度も、法人本部で定めた個人情報保護規程に従い、個人情報の取り扱いには細心の注意を払い業務を遂行しました。
② ＵＳＢは使用しておりません。
③ ファックスや郵送に関しては、マスキングの徹底やチェックシートを使って必ず二人で行いました。
④ 紛失を防ぐために、ファックスでの受信や受付で預かった個人情報書類は必ず「個人情報受付簿」に記入し、最後まで確認を行ないました。
⑤ 個人情報を含む書類等の保管は鍵のかかる場所としております。
⑥ やむを得ず個人情報を所外に持ち出す時は、出張命令簿に明記し上司の承認を得ております。
⑦ 個人情報保護の研修を全職員対象に行いました。
⑧ 日々の業務の流れについて各部署が常に課題意識を持ち随時検証してまいりました。

(7) 情報公開への取組について

① 横浜市が制定する「情報公開条例」の趣旨に則り、当法人は情報公開規程を定めています。公開する情報としては、法人の概要、サービス内容、財務状況、事業計画、事業報告等です。
② また情報開示に関する申し出があった場合は、個人情報保護に最大限配慮しつつ、積極的に情報開示に努めました。

(8) 人権啓発への取組について

①法人では「横浜市福祉サービス協会倫理綱領」を制定し、援助者として持つべき視点や人権意識を採用時研修や年１回の全職員対象の研修等で適宜確認しております。
② いずみ中央地域ケアプラザでも毎年４月には、全職員対象に「協会の倫理」や「横浜市福祉サービス協会倫理綱領」を基に人権についての研修を行い、人権意識の確認を行いました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

① 省エネルギー対策、ごみの減量化に努め、節電・節水をこまめに行いました。
② ゴミのルート回収を行い、徹底したゴミ分別と削減に努めました。
③ 夏はクールビズを、冬はウォームビズでの執務を心掛けました。
④ 多くのボランティアの協力を得て施設周りの雑草の除去とともに四季折々の草花を育て、心の安らぎの提供を図りました。
⑤ 施設敷地内にある菜園に撒く肥料は、無臭のものを使い近隣に迷惑がかからないようにしました。
⑥ 住宅密集地なので、事業の際など近所の迷惑にならないよう音漏れに配慮しました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第１号介護予防支援事業

≪職員体制≫

管理者	（常勤兼務）	１名
保健師職	（常勤）	１名
社会福祉士	（常勤）	２名
主任ケアマネジャー	（常勤）	１名

計５名

≪目標に対する成果等≫

① 地域の高齢者が、その人らしい自立した生活を送れるよう介護予防給付、介護予防・日常生活支援総合事業を、適正に実施しました。
② サービス提供事業所や予防プラン委託先の居宅介護支援事業所と連絡調整を適宜行い、お客様の状況を把握及び共有してサービスの向上に努めました。
③ 地域アセスメントを行い、地域の実情に合致した介護予防普及啓発事業を企画・実施しました。
④ 地域の介護予防グループ、体操教室、地域高齢者サロンの活性化に向けて、担い手同士の情報交換、スキルアップ講座等の育成支援を行ないました。

≪実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）≫
※介護予防支援については原則として実費負担はありません。

≪その他（特徴的な取組、ＰＲ等）≫
① エリア内の医療機関と連携し、幅広い住民層を対象とした介護予防講座を企画・実施しました。
② 包括支援センター、生活支援コーディネーター、地域活動交流コーディネーターとの連携でダブルケアへの支援をテーマとした講座「ママ・パパのための介護セミナー」を 3 回開催しました。

≪利用者実績≫
※　単位は省略してください。　【単位：人】

４月	５月	６月	７月	８月	９月
149	151	151	152	158	156
10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
157	150	152	149	152	157

● 居宅介護支援事業

≪職員体制≫

管理者(主任介護支援専門員)	常勤兼務	１名
介護支援専門員	常勤専従	２名
介護支援専門員	非常勤専従	２名
	計	５名

≪目標に対する成果等≫

① 法令を遵守し、公正中立な立場から支援を致しました。
② お客様個別の生活課題を把握し専門的な見地からケアプランの作成を行いました。
③ お客様の声に耳を傾け、向上性のあるケアプランを作成してまいりました。
④ きめ細やかにお客様のお宅を訪問し、状況変化等の把握に努めました。
⑤ 専門職としてスキルアップと研鑽に心がけ、ケアマネジャーとしての質の向上に努めました。

≪実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）≫

居宅介護支援について実費負担はありません。

≪その他（特徴的な取組、ＰＲ等）≫

① 特定事業所Ⅲとして 24 時間連絡できる体制をとりました。
② 毎週 1 回、ケアマネ会議を開催し、困難ケース等の対応についての検討や情報交換、研修等を行いました。その際、地域包括支援センターの主任介護支援専門員にも出席を願い、密な連携が図れるよう努めました。

≪利用者実績≫

※ 単位は省略してください。 【単位：人】

４月	５月	６月	７月	８月	９月
１１９	１２０	１１８	１２１	１２０	１１７
10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
１２２	１２３	１２３	１２２	１２０	１１４

● 通所介護・認知症対応型通所介護

≪提供するサービス内容≫
- ●機能訓練をお客様毎の身体状況に応じて提供します。
- ●入浴、排泄、食事等の介助、支援、見守り等のサービスを行います。
- ●口腔機能向上支援サービスを提供します。

≪実費負担（徴収する項目ごとに記載）≫

●	1割負担分	2割負担分	3割負担分
（要介護１）	662 円	1,323 円	1,985 円
（要介護２）	782 円	1,563 円	2,345 円
（要介護３）	905 円	1,810 円	2,715 円
（要介護４）	1,030 円	2,059 円	3,088 円
（要介護５）	1,154 円	2,307 円	3,461 円

- ● 食費負担 700 円
- ● 行事食 お客様希望で行事食を提供した場合食費との差額分
- ● 通常外レクレーション等 実費
- ● 処遇改善加算 1か月のご利用単位数の 1000 分の 59 に相当する単位数の料金を加算

≪事業実施日数≫ 週 6 日

≪提供時間≫ 9：45 ～ 16：50

≪職員体制≫

生活相談員 3 名 看護師 6 名 厨房スタッフ 6 名
介護スタッフ 27 名 ドライバー5 名（全てシフトによる）
月 3 日間 歯科衛生士の勤務（委託）

≪目標に対する成果等≫

お一人おひとりのお客様について自立支援の立場から、心身の状況、ニーズの把握をし、可能な限り居宅で自立した日常生活を継続できるよう支援してまいりました。

≪その他（特徴的な取組、ＰＲ等）≫

①専門性を取り入れた口腔ケアを行いました（歯科衛生士による）
②サークルやクラブ活動（カラオケ、絵画サークル、コーラス、習字、麻雀手芸、囲碁等）をご自分で選択して参加して頂きました。
③マシンを取り入れた機能訓練にご希望で参加して頂きました。
④「回想法」を積極的に取り入れてまいりました。

≪利用者実績（延べ人数）≫

※ 単位は省略してください。 【単位：人】

４月	５月	６月	７月	８月	９月
885	918	926	960	953	893
10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
955	891	867	803	784	854

● 介護予防通所介護・第１号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

≪提供するサービス内容≫
●機能訓練をお客様毎の身体状況に応じて提供します。
●入浴、排泄、食事等の介助、支援、見守り等のサービスを行います。
●口腔機能向上支援サービスを提供します。

≪実費負担（徴収する項目ごとに記載）≫

●	１割負担分	２割負担分	３割負担分
（要介護１）	1,072　円	2,144 円	3,216 円
（要介護２）	1,188　円	2,376 円	3,564 円
（要介護３）	1,305　円	2,609 円	3,915 円
（要介護４）	1,422　円	2,844 円	4,266 円
（要介護５）	1,539　円	3,077 円	4,617 円

● 食費負担　700　円
● 行事食　お客様希望で行事食を提供した場合食費との差額分
● 通常外レクレーション等　実費
● 処遇改善加算　1か月のご利用単位数の 1000 分の 104 に相当する単位数の料金を加算

≪事業実施日数≫　週　6　日
≪提供時間≫　9：45　～　16：50
≪職員体制≫生活相談員 3 名　看護師 6 名　厨房スタッフ 6 名
介護スタッフ 26 名　ドライバー5 名（全てシフトによる）
月 3 日間　歯科衛生士の勤務（委託）
※　その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

≪目標に対する成果等≫
認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援をこころがけてまいりました。

≪その他（特徴的な取組、ＰＲ等）≫
①認知症の特性を理解し小規模体制による細やかな個別対応で安心してお過ごしいただくことを心がけました。
②専門性を取り入れた口腔ケアを行いました（歯科衛生士による）
③回想法の専門の研修を受けたスタッフが多数おり回想法に力を入れています。
④生活リハビリや様々なアクティビティを取り入れ生活の質の向上を図ってまいりました。

≪利用者実績（契約者数）≫
※　単位は省略してください。　【単位：人】

４月	５月	６月	７月	８月	９月
29	29	25	23	25	24
10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
24	24	24	25	25	25

平成30年度　自主事業収支報告書

横浜市いずみ中央地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者 ②募集人数 ③一人当たり参加費	自主事業決算額							
		総経費	収入				支出		
			指定管理料		参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
介護者のつどい	介護している方 10名 無料	2745	地活 包括	2745				2745	
			介護 生活						
パパママのための介護セミナー	地域の方 30名 無料	4278	地活 包括	4278			1000	2018	1260
			介護 生活						
権利擁護事業	地域の方 30名 無料	1181	地活 包括	1181				1181	
			介護 生活						
ケアマネ連絡会	地域の居宅CM 40名 無料	8950	地活 包括	8950			2000	6950	
			介護 生活						
スクエアステップ講座	おおむね60歳以上高齢 25名 200円	125836	地活 包括	19836	106000		125836		
			介護 生活						
座式太極拳男性教室	おおむね60歳以上男性 20名 200円	48994	地活 包括	15394	33600		48994		
			介護 生活						
ゆる体操教室	おおむね60歳以上高齢 25名 300円	138000	地活 包括	43200	94800		138000		
			介護 生活						
いがやき健康体操男性教室	おおむね60歳以上男性 20名 500円	187099	地活 包括	96599	90500		187099		
			介護 生活						
はまちゃん体操クラブ	おおむね60歳以上高齢 40名 100円	70500	地活 包括	-19800	90300				70500
			介護 生活						
音楽療法サロンドレミ	おおむね60歳以上高齢 25名 300円	96000	地活 包括	40200	55800		96000		
			介護 生活						
いこいの家ノルディックウォーキング	おおむね60歳以上高齢 20名 0円	0	地活 包括		0	0	0	0	0
			介護 生活						
			地活 包括						
			介護 生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度　自主事業収支報告書

横浜市いずみ中央地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者 ②募集人数 ③一人当たり参加費	自主事業決算額							
		総経費	収入				支出		
			指定管理料		参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
子育て仲間 ぽんぽこPART2	未就園児とその保護者 70名(35組) 100円	32,071	地活	25471	6600	0	0	4571	27500
			包括						
			介護						
			生活						
おはなし会	未就園児とその保護者 20名(10組) 無料	21,000	地活	21000	0	0	0	0	21000
			包括						
			介護						
			生活						
飛行船いずみ	障害児・者 10名 200円	66,943	地活	28243	38700	0	0	18855	48088
			包括						
			介護						
			生活						
ラジオ体操	地域 定員なし 無料	2,796	地活	2796	0	0	0	2796	0
			包括						
			介護						
			生活						
うたごえサロン	高齢者 80名 無料	19,754	地活	19754	0	0	16000	0	3754
			包括						
			介護						
			生活						
多世代交流サロン みんなの広場	4歳児～高齢者 20名 (無料～300円)	42,909	地活	15209	27700	0	8182	31367	3360
			包括						
			介護						
			生活						
ういずみーの会 (在宅重度重複障がい児と家族の交流会)	障害児・者、家族 10名 無料	0	地活	0	0	0	0	0	0
			包括						
			介護						
			生活						
パパと遊ぼう	未就学児と保護者 定員なし 無料	560	地活	560	0	0	0	0	560
			包括						
			介護						
			生活						
ケアプラザ クリーンアップ	地域 定員なし 無料	24,506	地活	24506	0	0	0	20026	4480
			包括						
			介護						
			生活						
ケアプラ文庫	地域 定員なし 無料	0	地活	0	0	0	0	0	0
			包括						
			介護						
			生活						
貨室団体交流会	地域 45名 無料	3,932	地活	3932	0	0	0	0	3932
			包括						
			介護						
			生活						
夏休みラジオ 体操	児童 定員なし 無料	12,762	地活	12762	0	0	0	0	12762
			包括						
			介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度　自主事業収支報告書

横浜市いずみ中央地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者 ②募集人数 ③一人当たり参加費	自主事業決算額								
		総経費	収入				支出			
			指定管理料		参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
ジュニアフレンド 夏事業	障害児 9名 0		地活	0	0	0	0	0	0
			包括						
			介護						
			生活						
そよ風フェスタ	地域 定員なし 無料 123,212		地活	91562	0	31650	6682	91988	24542
			包括						
			介護						
			生活						
ボランティア 感謝と交流の集い	ボランティア 45名 無料 36,380		地活	36380	0	0	0	3724	32656
			包括						
			介護						
			生活						
茶ろんいずみ	高齢者 定員なし 無料～500円 52,223		地活	20929	30100	1194	0	204	52019
			包括						
			介護						
			生活						
いずみ中央 ジュニアカレッジ	小学生 20名 無料～500円 20,499		地活	9399	11100	0	0	6400	14099
			包括						
			介護						
			生活						
はじめてのスマホ講座	高齢者 10名 無料 0		地活	0	0	0	0	0	0
			包括						
			介護						
			生活						
シニアボランティア ポイント登録研修会	地域 10名 無料 0		地活	0	0	0	0	0	0
			包括						
			介護						
			生活						
まほろば会	地域 10名 無料 0		地活	0	0	0	0	0	0
			包括						
			介護						
			生活						
ママ・パパのための 介護セミナー （包括、地交、生支共催）	地域の方 30名 無料 2,018		地活	2018	0	0	0	0	2018
			包括						
			介護						
			生活						
ちゅーりっぷ ファミリーコンサート	親子 各CP10名 無料 10,000		地活	10000	0	0	0	0	10000
			包括						
			介護						
			生活						
			地活	0					
			包括						
			介護						
			生活						
			地活	0					
			包括						
			介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度　自主事業収支報告書

横浜市いずみ中央地域ケアプラザ

	①募集対象者	自主事業決算額							
事業名	②募集人数	総経費	収入				支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料		参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
男性のためのアクティブLife講座	50歳以上の男性		地活						
	15名～30名		包括						
	無料～1,000円		介護						
		144315	生活	112615	31700			56836	87479
ChangeThe Life	20歳～65歳以上の男女		地活						
	20名		包括						
	500円		介護						
		52711	生活	35211	17500		33411		19300
地域（まち）の担い手（なかま）が集うコツ	地域住民		地活						
	30名		包括						
	無料		介護						
		25437	生活	25437	0		11137		14300
包括・交流・生活支援共催　ママ・パパのための介護セミナー	地域の方		地活						
	30名		包括						
	無料		介護						
		4838	生活	4838	0		1000	2018	1820
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						
			地活						
			包括						
			介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度　自主事業報告書

横浜市いずみ中央地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者のつどい	(目的) ･在宅で介護されている方、介護が終わった方、介護に興味のある方などが参加し、介護の悩みや情報交換をする場を提供.。 (内容) ･介護されている方が、それぞれの介護の状況について話す ･必要時、介護に関する情報提供	偶数月第4木曜日 年6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ママとパパのための介護セミナー	（目的） ・子育てと介護の両方を行うことになるダブルケア世代への支援 （内容） ・介護保険に関する情報提供 ・地域内の介護保険施設の施設見学会	年3回　土曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
権利擁護講座	（目的） ・権利擁護に関する講座を地域の方向けに行い、権利擁護に関する普及啓発を行う （内容） ・地域の会館を利用し、エンディングノート、遺言・相続、成年後見制度等などの講座を行い、地域の方に権利擁護に関する情報提供を行う。	年3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
はまちゃん体操クラブ	地域の一般高齢者を対象とし、はまちゃん体操を中心とした椅子に座ったままで行なう運動メニュー、脳トレを取り入れ開催した。併せて地域体操リーダーにボランティア講師として担い手となってもらい、地域介護予防活動支援事業の一環として実施した。	毎月2回（第2火曜日・第4木曜日）
事業名	目的・内容	実施時期・回数
継続ゆる体操教室	地域の一般高齢者を対象とし、ゆる体操を継続的に続けたいと希望している方の為の教室である。ゆる体操の基礎的な動きから応用的な動きまで幅広いメニューで行う。血流・リンパ液の流れが維持改善されることを目的とし、実施した。	毎月2回（第2・4金曜日）

平成30年度　自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
サロンドレミ	音楽療法により、認知症予防・閉じこもり予防・口腔機能維持改善・心肺機能維持改善を目的として開催した。自宅でも出来る脳活性化メニュー、回想法、足腰を使ったメニューも取り入れ様々な視点から脳の活性化に取り組む実施した。地域住民にボランティアとして参加してもらい、自分自身のスキルアップに繋げる目的で開催した。	毎月1回（第3日曜日）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
かがやき健康体操男性教室	男性一般高齢者を対象として、短時間で口腔機能維持改善・心肺機能維持改善を目的として開催。自宅でも出来る脳活性化メニュー、口腔体操、足腰を使ったメニューも取り入れ様々な視点から脳の活性化に取り組み実施した。体操開始前の握力・血圧測定も同時に実施した。	毎月2回（第2・4土曜日）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
スクエアステップ講座	一般高齢者を対象として、スクエアステップマットを使用してラインを踏まないように運動することで、敏捷性・バランス性を保持し、転倒予防へと繋がることを目的として開催。ステップを覚え実際に脳と身体を同時に使う事が脳の活性化へと繋り、認知機能の低下を防ぐ事を目的とし実施した。	毎月2回（第１月曜日・第3火曜日）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
座式太極拳男性教室	座ったままで行う太極拳とストレッチ・呼吸法を取り入れて開催した。筋力や体力が低下している男性高齢者を対象として実施した。	毎月2回（第1・3金曜日）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
いこいの家ノルディックウォーキングクラブ	一般高齢者を対象として、ノルディックウォーキングに定期的に取り組んだ。コース決めや、リーダーは地域住民ボランティアが行なえるよう後方支援した。春のお花見スペシャルロングウォーキングをボランティア主体で企画し開催した。	毎月１回（第2木曜日）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
いずみ中央・いずみ野ケアマネ連絡会	エリア内のケアマネジャーが、多職種連携や地域の社会資源とのつながりが持てること、また、ケアマネジメントの質の向上が図られるよう、定期的にグループワークなどによる勉強会・交流のための機会と場をつくる。	毎月第３火曜日

平成30年度　自主事業報告書

横浜市いずみ中央地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
子育て仲間 ぽんぽこPART2	(目的)遊びを生活の一部として取り入れ、子どもたちの成長の糧とする。また、子育て中の保護者同士の交流や情報交換の場を提供する。 (内容)幼児とその保護者を対象に、保育ボランティアが手作りおもちゃ、手遊び、イベントなどで盛上げる。	全10回 毎月第2木曜 （8月・3月を除く）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おはなし会	(目的)親子が一緒に楽める場を提供し、絵本を通じて素直な心、夢を描く心、人の話を聴く心を育てる。 (内容)わらべ歌を一緒に唄ったり、手遊びや絵本の読み聞かせを通して親子のスキンシップを自然に行う。	全11回 毎月第3木曜 （8月を除く）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
飛行船いずみ	(目的)学齢障害児へ放課後の余暇支援を行う。また、地域ボランティアとの交流の場を提供する。 (内容)個別支援学級に通う小・中学生と特別支援学校に通う高校生とボランティアとで、音楽、運動といった活動や、季節に合わせたプログラムを楽しむ。 （5月：遠足　7月：BBQ 1　2月：クリスマス会 3月卒業パーティー）	全24回 毎月第2・4火曜 (遠足、BBQを除く)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
茶ろんいずみ	(目的)外出支援と介護予防を目的としたミニデイサービスで、高齢者の閉じこもりを予防。 (内容)音楽に合わせた体操で始まり、その後は書道、手芸、カラオケ、麻雀のグループに分かれて趣味活動を行う。季節に合わせたプログラムも適宜実施する。 （6月：交流の集い　12月：クリスマス会　1月：新年会）	全33回 毎月第1・3・4水曜 (8月、12月、1月は月2回)

平成30年度　自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ラジオ体操	(目的)地域の方が毎朝決まった時間に集まり、ラジオ体操を一緒に行うことにより生活リズムを維持し、健康の保持・増進につなげる。 (内容)デイサービスの送迎車出発後に、ケアプラザロータリー広場にてラジオ体操第1・２を開催。	全359回 年末年始（12/29～1/3）を除き毎日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
うたごえサロン	(目的)歌を通じて地域住民同士の交流の促進を図る。 (内容)ボランティアの生演奏で参加者が一緒に合唱を楽しむ。	全10回 毎月第1日曜 （6月、12月は除く）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
多世代交流サロン みんなの広場	(目的)小さいお子さんから高齢者の方まで、プログラムを通じて交流し、新たな縁を育む。 (内容)主に昼食をつくり（カレーなど）それを参加者全員で食べる。	全5回 （5、7、9、10、1月の第４土曜に実施）

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ういずみーの会 (重症心身障がい児と家族の交流会)	(目的)外出の機会が少なく、孤立しがちな本人・ご家族に交流の場を提供し、また保護者同士情報交換の場となるよう努める。 (内容)子どもと一緒に集まった保護者同士が情報交換、交流を行う。地域活動ホームかがやきとの共催事業。	全3回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
パパと遊ぼう	(目的)パパの子育て参加を促す。子育て中の保護者同士(特に父親同士)の交流や情報交換の場を提供する。 (内容)子育て支援ネットワーク関連機関で幼児とその保護者を対象に公園あそびを実施する。	全2回

平成30年度　自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ケアプラザ クリーンアップ	(目的)福祉保健活動の場を提供するとともに、普段貸室を利用する団体同士の交流促進を促す。 (内容)ケアプラザ内の部屋（多目的ホール、調理室、地域ケアルーム、ボランティアルーム）と外回りの清掃を行う。	全2回 (6月・11月)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ケアプラ文庫	(目的)図書館まで行くのは遠くて大変、という方たちのために気軽に利用できる貸し出し図書。 (内容)戸塚図書館からの貸し出し本やリサイクル本で、幼児から高齢者までが利用できる本を揃えるようにし、貸し出しを行う。	全359回 年末年始（12/29～1/3）を除き毎日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
貸室団体交流会	(目的)貸室を利用されている皆様に交流、情報交換の場を提供し、団体の活動の幅を広げられるよう支援する。また、ケアプラザの機能について等周知する。 (内容)団体の自己紹介、ケアプラザの機能について、特定避難場所について、そよ風フェスタについての周知、その他ケアプラザへのご意見を伺う。	全1回（9月）

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
夏休みラジオ 体操	(目的)子どもたちに長期休みの生活を規則正しく送ってもらうことを目指し、同時にケアプラザの存在、所在を知ってもらう。また大人に対しても子や孫との参加を呼びかけ、多世代交流の場となるよう努める。 (内容)幼稚園や学校の夏休み期間、参加カードと参加賞を用意し、ラジオ体操第1・２を行う。	42回 7月末～8月末

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ジュニアフレンド 夏事業	(目的)障害児に新たに出会いの場、生活経験を拡大できる場、充実したひと時を過ごせる活動の場を提供すると共に家族のレスパイトを図る。障害に理解のある地域や学生のボランティア育成を図る。 (内容)ジュニアフレンド実行委員会との共催事業。泉区在住、在学の障害児を募集し、余暇プログラムを実施する。	全1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
そよ風フェスタ	(目的)いずみ中央地域ケアプラザが地域の福祉拠点であり、すべての世代の方に来ていただける場所であることを周知すると共に、地域で福祉に関わる団体の活動を地域の方に知っていただく。 (内容)貸室団体や地域の団体による展示・発表、町内会・作業所などによる出店。	全1回（12/2）

平成30年度　自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア 感謝と交流の集い	(目的)ケアプラザで活躍中のボランティアに対し、日頃の活動に感謝の意を示すと同時に新たなボランティア活動の紹介など今後の交流につなげる。 (内容)第1部は今後のボランティア活動において有益となるスキルアップ講座、第2部は交流会として自身の活動紹介や貸室団体による演奏等を行う。	全1回(2月)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
はじめての スマホ講座	(目的)インターネットが普及し、様々なサービスがスマートフォンを介して行われるようになってきた昨今、高齢者がスマートフォンを活用し、より容易に地域で充実した生活がおくれるよう支援する。日頃ケアプラザを利用されたことがない方にご参加頂きケアプラザを知っていただく。 (内容)座学にてスマートフォンについて概略を学び、その後デモ機を使用し、LINEやマップ、カメラ等の機能に触れる。	全1回(1月)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
いずみ中央 ジュニアカレッジ	(目的)小学生を対象に、夏休みの自由研究等において有益な講座を行い夏休みを有意義に過ごしてもらい、その保護者に対してケアプラザが、青少年の健全な育成の場としての機能を持っていることを周知する。また、貸室団体の方等を講師に迎えることで多世代交流の場の提供を目指す。 (内容)工作教室や生け花教室、体操等の講座を行う。	全6回 (7月～8月)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ちゅーりっぷ ファミリー コンサート	(目的)家族で楽しめる内容を企画し、子育て支援にとどまらず、家族支援へつなげていく。イベントを通して広くケアプラザの存在や役割を知ってもらい、新しいお客様を呼び込む。法人の社会貢献をアピールする。 (内容)西公会堂にてコンサート実施。	全1回(9月)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
シニアボランティアポイント登録研修会	(目的)地域の方のボランティア活動参加を促す。 (内容)シニアボランティア登録研修会をケアプラザにて開催する。	全1回 (10月)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
まほろば会	(目的)ケアプラザ自主事業「茶ろんいずみ」で大人気のプログラムである麻雀に参加したいがルールがわからないという方が多く、そういった方への支援として麻雀教室を開催する。 (内容)麻雀初心者の方の為の麻雀教室を開催する。	全12回 (毎月第2水曜)

平成30年度　自主事業報告書

横浜市いずみ中央地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
男性のためのアクティブLife講座	(目的) ・シニア男性たち自らが男性の孤立化・孤独化という地域課題に向けて有効と思われる取組みを自ら考え実践していく。 ・シニア男性の新たな交流をつくることで、地域へ関心を持つことや自身の健康増進に取組むこと。 (内容) ・シニア男性自らが講座内容を考える。 4月工場見学、5月フレイル予防セミナー　6月福祉施設見学会　9月～12月　ウォーキング、認知症サポーター養成講座など　1月～3月　空港見学、ウォーキングなど	4月～3月 全10回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
Change The Life	（目的） ・若い世代に向けて実施するロコモティブシンドローム予防講座。 ・日ごろから運動を習慣づけ、自身の健康増進に務めること。 （内容） ・健康、食事に関する講話 ・筋トレやエクササイズに関する実践	５月～６月 全３回　開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域（まち）の担い手（なかま）が集うコツ	（目的） ・和泉中央地区社会福祉協議会と共催 ・和泉中央地区が培ってきたノウハウをを共有することで、地域活動の継続及び発展を目指す。 （内容） ・村山前会長による講演 ・グループディスカッション	全１回 （6/30）

事業名	目的・内容	実施時期・回数